

# 漆器ができるまで展〈展示品一覧表〉

会期: 令和元年8月24日～令和元年11月4日

見本名		作者名	制作年度
きゅうしつこうていみほん 髹漆工程見本 (木地から塗りに至るまでの工程見本)		やました よしと 山下 義人	平成30年度
ぬのめぼ きんま 布目彫り蒟醬工程見本		おおたに はやと 大谷 早人	平成28年度
見本名	作者名	彫り方	制作年度
蒟醬彫り見本手板	つじ たかし 辻 孝史	ぬのめぼ 布目彫り	平成29年度
		せんぼ 線彫り(切る)	
	のじま はなえ 野島 華恵	キサゲ彫り	
		おうふくぼ 往復彫り	
		てんぼ 点彫り	
	もり やすし 森 安史	がんとうぼ 丸刀彫り	
めんぼ 面彫り			
そじ 塗り物素地見本	さしもの ひきもの らんたい かんしつ きんたい しつび したい まげわ せきそう どうたい けんたい くりもの 指物・挽物・籃胎・乾漆・金胎・漆皮・紙胎・曲輪・積層・陶胎・捲胎・剝物	平成23年度	

\* すべて香川県漆芸研究所の所蔵品です

## 【香川漆芸の三技法について】

技法	解説
きんま 蒟醬	竹や木などで作った器物の上に漆を数十回塗り重ねて文様を彫ります。そして、彫り込みを入れた溝に色漆を埋め、表面を平らに研ぎ余分な色漆を落とすことにより意図した文様を表現する技法です。
ぞんせい 存清	漆を塗り重ねた器物の表面に色漆で文様を描きます。そして、輪郭や細部に線彫りを施し、彫り口に金粉や金箔を埋めて文様を引き立てる技法です。
ちょうしつ 彫漆	各種の色漆を数十回から数百回塗り重ねて色漆の層(100回で厚さ約3mm)をつくります。そして、色漆の層を彫り下げることによって文様を浮き彫りにする技法です。

【お問い合わせ】香川県漆芸研究所 〒760-0017 香川県高松市番町1丁目10-39

TEL(087)831-1814

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/sitsugei/>

